

第1期滋賀県スポーツ推進計画の総括について～基本方針に係る取組～

県民のスポーツに関わる機会の増加や子どもの体力向上に取り組んできたが、指標の達成率は低いことから、第1期計画の取組を評価し、第2期計画の取組につなげる。

基本方針	指標	目標(H29)	現状(H28)	取組内容	課題	第2期推進計画における指標の対応(案)	
①	自ら行うスポーツ活動の充実	成人の週1回以上のスポーツ実施率の向上	県の実施率：36.0% 国:実施率：42.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人の週1回以上のスポーツ実施率は平成25年度調査と比べて低下している。</li> <li>・20歳代～40歳代の実施率が低く、年代が高い方が運動やスポーツを行う頻度が高い。</li> <li>・スポーツを実施しない理由は「仕事が忙しい」「懇会がない」が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「県民スポーツの祭典」を通じて、3万6千人(H28年度)が参加するなど県民のスポーツを「する、みる、支える」の各場面において、機会の提供を図った。</li> <li>●広域スポーツセンター事業では、クラブアドバイザーの派遣や総合型クラブ間での情報共有の場を設け、障害者スポーツ推進事業において新たに7クラブが障害者スポーツに取り組むなど、総合型クラブに対する育成・支援を行った。</li> <li>●障害者スポーツの普及事業や大会開催(H28年度、1,482人参加)を通じた障害のある人の社会参加機会の提供および障害者スポーツの競技力向上を実施した。</li> <li>●スポーツボランティア支援事業により、個人登録や団体登録を呼びかけ、H28年度末で334名が登録。</li> </ul>	引き続き、国の目標値65%を参考に成人のスポーツ実施率65%以上を設定 合わせて障害者のスポーツ実施率に関する目標を新設	
スポーツ推進の具体的展開	② 次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実	1日の運動・スポーツ実施時間が1時間以上の割合(授業を除く) 【小学校5年生】 ※H26年度から1週間の運動・スポーツ実施時間に変更	全国平均を上回る	<p>県男子：590.73分 全国男子：602.92分</p> <p>県女子：347.20分 全国女子：370.26分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の小学生の1週間の運動時間(体育の授業を除く)は、全国平均より少ない。</li> <li>・1日の運動時間に換算すると、男子は84分、女子は53分であり、女子は1時間の運動時間に達していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼児期からの「1日60分運動」の運動(遊び)の取組、小学校での「健やかタイム」を実施した。</li> </ul>	・土日の運動時間は全国平均より高いものの、平日は全国平均を下回っており、放課後のスポーツクラブなど、子どもたちの身近な運動・スポーツ環境の充実が必要がある。 ・引き続き、子どもたちが運動に親しめる機会を工夫して作ることや、学校での体験・学習したことを学校外(帰宅後)の運動習慣に結び付ける取組を拡充する必要がある。
	子どもの体力・運動能力テストの体力合計点【小学校5年生】	全国平均を上回る	県男子：53.41点 全国男子：53.92点 県女子：53.84点 全国女子：55.54点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の小学校5年生男女の体力合計点は、いずれも全国平均より低い状況にある。</li> <li>・男子は、全国平均との差は小さいが、拡大傾向にある。</li> <li>・女子は、全国平均との差は大きいが、縮小傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各小学校において「体力向上委員会」を設置し、「体力向上プラン」に基づく取組を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「運動が好き」と答える割合が全国平均よりも低いことから、運動・スポーツに魅力を感じることができる学習体験活動を拡充する必要がある。</li> <li>●学校教育活動以外でのスポーツ活動ができるようスポーツクラブ(スポーツ少年団含む)と連携した取組を充実する必要がある。</li> </ul>	・体力運動能力は、運動時間との関連性もあり、設定せず
③	(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者の数	500人以上増(2,888人以上)	34人の増(2,422人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者の数は計画時からは34人の増加となつたが、目標に対しては低い状況。</li> <li>・総合型クラブで指導する有資格スポーツ指導者の数は減少している。</li> <li>・競技団体の役員の高齢化が進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●H26年度から競技力向上対策本部を設置し、選手の育成・強化、指導体制の充実および強化拠点の構築・環境整備を行い、国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上に取り組んだ。</li> <li>●広域スポーツセンター事業では、総合型クラブへのクラブアドバイザーの派遣(102回)や、総合型クラブ間の情報共有や課題解決のための連絡協議会(3回開催)や有資格者の養成のための研修会(4回開催)を実施した。</li> <li>●県立スポーツ施設の整備および適切な維持管理に取り組み、県民への良好なスポーツ環境提供に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者資格は、更新手続きにおける経費や研修時間の確保などが課題である。</li> <li>●障害者スポーツに取り組む総合型クラブの拠点づくりの拡大および障害者スポーツ指導員の増加につながる取組を拡大する必要がある。</li> <li>●総合型クラブについて、広域スポーツセンター事業による支援と合わせて、情報発信による知名度の向上に努める必要がある。</li> <li>●県立スポーツ施設の整備、維持管理を計画的に進める必要がある。</li> </ul>	引き続き、目標として総合型クラブでの有資格スポーツ指導者数設定し、実態に応じた効能目標に変更 (公財)日本体育協会公認スポーツ指導者の数値は、廃闢施設との関連性が薄いため、指標として設定せず

番号	指標名	目標(H2B)	現状(H2B)	取組内容	課題		第2期推進計画における指標の対応 (第3)	
					現状	課題		
スポーツ推進の具体的展開	④ スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化	大学生が参画する総合型クラブの数	20クラブ以上	8クラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学生が参画する総合型クラブの数は、増加しているが、目標には届いていない。</li> <li>●クラブと体育会の指導者を通じた大学生の参加例は多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●H28年度から県において滋賀県スポーツ推進協議会を運営し、各市町の544人のスポーツ推進委員と連携した取組の実施した。</li> <li>●大学、企業との連携は、競技力向上対策の観点から、各専門部会や医療サポート会議での大学の有識者の参画や、(公財)滋賀県体育協会が設置する滋賀県企業スポーツ振興協議会を通じて、スポーツに関する企業との連携を進めた。</li> <li>●各関係市、競技団体、経済団体等で構成する「ワールドマスターーズゲームズ2021関西・滋賀実行委員会」での一丸となった体制構築や、「ホストタウン滋賀交渉推進実行委員会」での大学施設の利用や学生ボランティアの参画による大学との連携による交流や、スポーツをはじめ文化面等の交流活動を実施した。</li> <li>●国体・全国障害者スポーツ大会開催準備は、関係団体との連携のもと、開催準備委員会の各専門委員会・特別委員会の活動実施。</li> <li>●トップアスリートやプロスポーツチームを活用し、スポーツの素晴らしさ、滋賀県の魅力を県内外に発信した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ振興を図る上で、様々な分野で大学や企業等との連携を一層進め、活力ある地域づくりにつなげる必要がある。</li> <li>●特に、ワールドマスターーズゲームズ2021関西や、国体・全スポーツ大会、東京オリンピック・パラリンピック等のスポーツイベント開催に向けた諸事業の展開のためのボランティアの育成や、そのための多くの大学生の参画や企業との連携を図ることが不可欠である。</li> <li>●総合型クラブへの大学生参画のための県ボランティア支援制度等の充実、関係団体との連携による仕組みづくりの構築。</li> <li>●全国規模のスポーツイベントやトップアスリートを活用して、地域経済への効果波及や地域の活性化を図る必要がある。</li> </ul>	「スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数」等の指標を新たに設定
	⑤ 滋賀の特性を活かしたスポーツの推進	特性を活かした市町のスポーツ推進に関する計画策定率	100%	78.9% (15/19市町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●策定の市町は増加したが、目標は達成できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●滋賀の特性を活かした取組では、サイクルスタンドの設置数が38か所となり、また、サイクルステーションも整備されたことによる「ビワイチ」の利便性の向上を図った。</li> <li>●本県を代表するスポーツイベントである朝日レガッタ、びわ湖毎日マラソン大会等の開催を通じた全国からの選手の参加および滋賀を発信した。</li> <li>●未策定の市町にスポーツ推進計画の策定を働きかけ、6市町が新たに計画を策定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特性を活かした市町のスポーツ推進に関する計画づくりについては、未策定の市町もあり、引き続き策定について働きかけを行う必要がある。</li> <li>●東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターーズゲームズ2021関西、国体・全国障害者スポーツ大会を通じ、地域のシンボルスポーツの創出やスポーツボランティアの育成に努める必要がある。</li> <li>●健康新たにホストタウンの取組に係る指標を設定</li> </ul>	大半の市町のスポーツ推進計画策定が終了していることや、施策展開と指標の関連性が薄いため指標として設定せず 新たにホストタウンの取組に係る指標を設定